

## ユーザー定義関数環境の組み込み方

Excel でお仕事！サイトで紹介している「ユーザー定義関数」は、機能の実体は「マクロ (VBA)」です。  
これらの機能で提供している中身は「マクロ (VBA)」ですが、提供機能自体は「マクロ (VBA)」についてのコード等の学習は不要です。必要なのはマクロ関連のモジュール等の組み込み作業等だけなので、ここからの説明に沿って作業していただくだけです。VBA ソースコードの変更などは発生しません。

### 1. 組み込み項目の確認

「ユーザー定義関数」を利用したいワークブックに対して下記の項目を組み込む必要があります。

- ① clsAboutCalendar2 (クラスモジュール)
- ② modAboutCalendar2 (標準モジュール)
- ③ modCalendarForFormula1 (標準モジュール)
- ④ 「祝日パラメータ」(ワークシート)

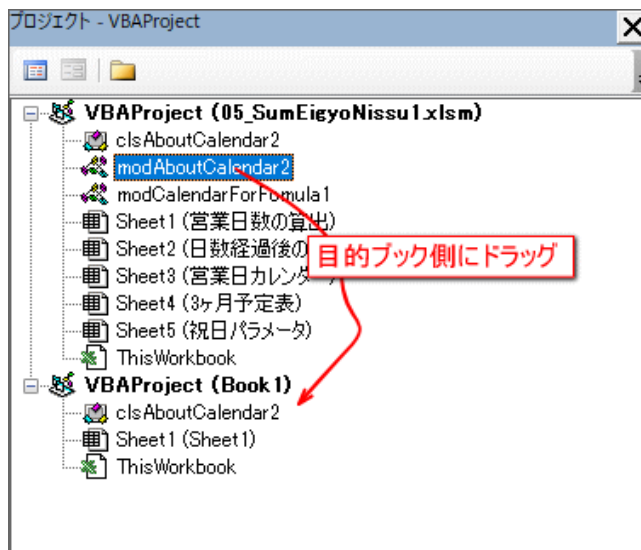
※上記の2つのサンプルブックにはこれらが組み込み済みなので「コピー」する作業になります。

### 2. モジュール類の組み込み

前項(組み込み項目の確認)の①～③をサンプルブックから目的のブックへ「コピー」します。

※目的のブックが未定であれば、「新しいブック(空白のブック)」でも構いません。

通常の Excel で上記2つのサンプルブックのどちらかと、目的のブックを開いてから、Alt+F11 を押すと、「Microsoft Visual Basic for Applications」が開きます。



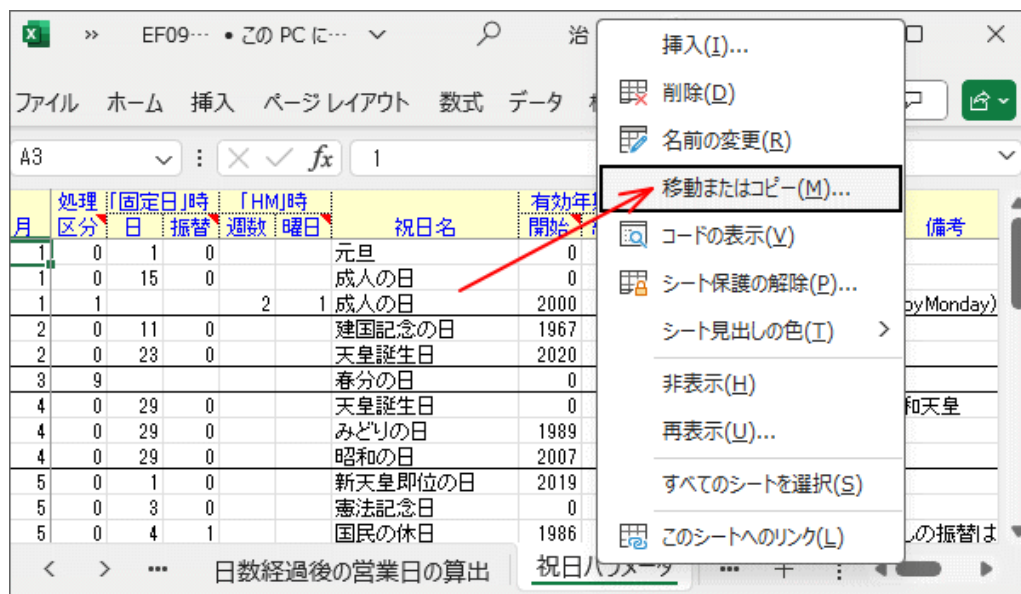
この画面は「Microsoft Visual Basic for Applications」の左上部分ですが、ここでサンプルブックにある①～③を目的のブックの方へマウスで1つずつドラッグさせて下さい。

画面イメージは「clsAboutCalendar2」だけがドラッグ済みの状態です。

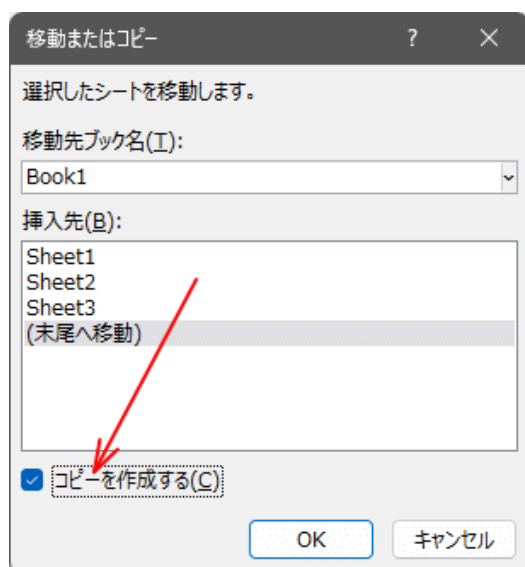
※ドラッグは必ず「コピー」となり、「移動」になることはありません。

作業が終わったら、Alt+F11 で通常の Excel ウィンドウに戻ります。

### 3. ワークシートの組み込み (④「祝日パラメータ」シート)



「祝日パラメータ」シートのシートタブを右クリックし、「移動またはコピー」を選択します。



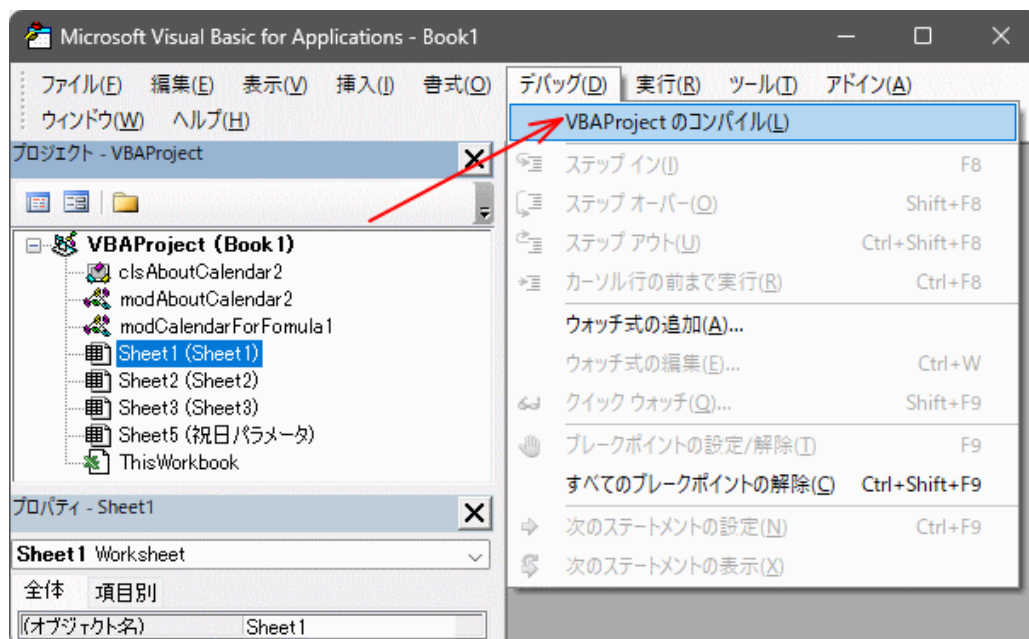
この「移動またはコピー」が表示されたら、「移動先ブック名」で目的ブックを選択、「挿入先」のシート位置を選択し、左下の「コピーを作成する」にチェックを付けて OK をクリックします。

#### 4. コンパイル(エラーチェック)

ここまでの作業で「ユーザー定義関数」に必要な環境の作成はできたはずですが。

コピー元だった当方提供のワークブックは閉じて下さい。

再度 Alt+F11 で「Microsoft Visual Basic for Applications」に入り、目的ブック側のシート等のどれかが選択されている状態で、「デバッグ」メニューの「VBAProject のコンパイル」を選択します。



この作業は一瞬で終了し、エラーがなければ何も起こりません。

エラーが表示された場合は、何かのモジュールが不足していますので、確認して下さい。

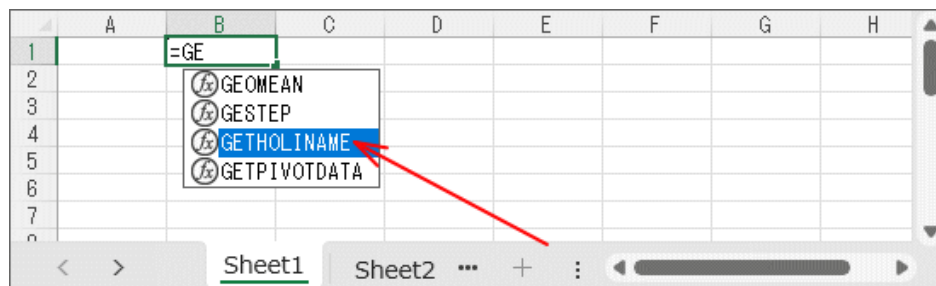
コンパイルが完了したら「Microsoft Visual Basic for Applications」は右上の[×]で閉じて下さい。

#### 5. 関数の動作確認

念のため、「ユーザー定義関数」が機能するか確認して下さい。

例えば空のワークシートであれば、A1 セルに「5 月 5 日」などの祝日の日付を入力します。

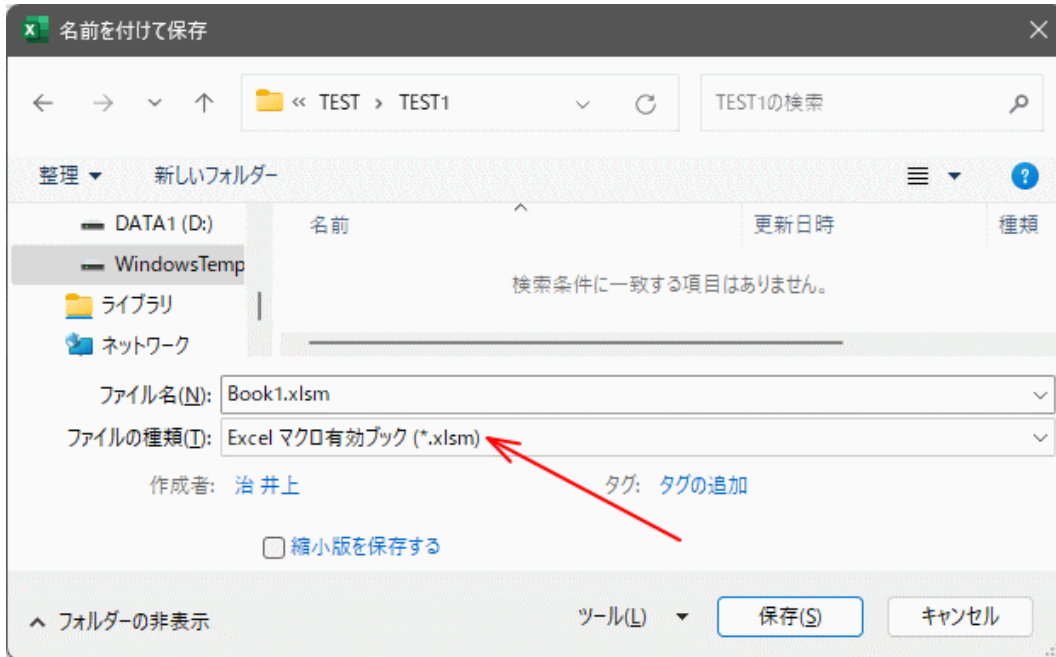
次に B1 セルに「GETHOLNAME 関数」を使った数式を入力します。



このように先頭の数字文字を入力すれば「数式オートコンプリート」が機能して「GETHOLNAME 関数」が表示されるはずですが。引数は A1 セルです。「こどもの日」が表示されれば動作確認完了です。

## 6. 処理ワークブックの保存

最後にマクロ関連のモジュール等の組み込み作業が完了した目的ブックを保存します。  
「マクロ (VBA)」が機能できるようにするには、「マクロ有効ブック (\*.xlsm)」で保存する必要があります。  
「名前を付けて保存」で行なって下さい。



## 7. 祝日情報の更新

この「GETHOLNAME 関数」の方法では、祝日法改正についても「祝日パラメータ」シートで新しい祝日の情報を追加するという作業で対応でき、日本国の祝日以外にも会社レベルの休日 (例：年末年始) を追加することも可能です。つまり、祝日変更によるマクロ (VBA) のコード修正は不要だということです。

A3		X		fx		1			
月	区分	日	振替	週数	曜日	祝日名	有効年	期間	備考
							開始	終了	
1	0	1	0			元旦	0	9999	
1	0	15	0			成人の日	0	1999	1999年までは15日固定
1	1			2	1	成人の日	2000	9999	2000年以降は第2月曜日 (Happy Monday)
2	0	11	0			建国記念の日	1967	9999	
2	0	23	0			天皇誕生日	2020	9999	※令和天皇(徳仁親王)
3	9					春分の日	0	9999	※「春分の日」は特殊計算
4	0	29	0			天皇誕生日	0	1988	天皇誕生日(～1988年) ※昭和天皇
4	0	29	0			みどりの日	1989	2006	みどりの日(1989～2006年)
4	0	29	0			昭和の日	2007	9999	昭和の日(2007年～)
5	0	1	0			新天皇即位の日	2019	2019	※名称は暫定です
5	0	3	0			憲法記念日	0	9999	
5	0	4	1			国民の休日	1986	2006	翌日が「こどもの日」で飛び越しの振替は行なわない
5	0	4	0			みどりの日	2007	9999	日曜日なら5/6に振り替えられる
5	0	5	0			こどもの日	0	9999	
7	0	20	0			海の日	1996	2002	2002年までは20日固定
7	1			3	1	海の日	2003	2019	2003年以降は第3日曜日 (Happy Monday)

祝日法改正についても「祝日パラメータ」シートで新しい祝日の情報を追加するという作業で対応でき、日本国の祝日以外にも会社レベルの休日 (例：年末年始) を追加することも可能です。  
※見出しの赤印にマウスポインタを合わせると、その列の値のガイドが表示されます。  
※「月」「日」の昇順を守って追加等の入力を行なって下さい。(同一日は有効開始年の昇順)